

沖縄中部地域の道路網の 整備促進に関する要望書

令和7年5月

(沖縄県)

中部市町村会
中部振興会

令和7年5月14日

中 部 市 町 村 会
会 長 中 村 正 人

中 部 振 興 会
会 長 中 村 正 人

沖縄中部地域の道路網の整備促進に関する要望

平素から沖縄中部地域の道路網の整備促進に銳意ご努力いただきしております、衷心より深く感謝と敬意を表するものであります。

道路は県民の日常生活や産業経済活動を支援し、地域の振興発展と活性化を促進する上で、欠くことのできない社会基盤であります。

道路整備については地域住民が熱望しており、地域の振興発展と活性化を促進するため、一層の整備促進とともに下記事項の実現方について、特段のご配慮をお願い申し上げます。

記

一、沖縄西海岸道路の建設整備推進について

北部と南部を結ぶ国道58号及びその周辺の交通混雑の緩和を図り、地域の活性化、地域振興プロジェクト並びに観光の支援に資する道路として、読谷道路及び嘉手納バイパス、浦添北道路Ⅱ期線、令和7年度に新規事業採択された宜野湾道路など、沖縄西海岸道路の建設整備を推進していただきたい。

また、那霸市から中部方面への抜本的な交通渋滞解消に向けて沖縄西海岸道路（浦添南道路）についても、調査・検討へ着手していただきたい。

一、那覇空港自動車道の整備推進について

那覇空港自動車道は、沖縄自動車道と一体となって沖縄本島の骨格道路を形成し、各圏域間の時間距離を短縮するとともに、市街地を始め各地域において増大する交通需要への対応が重要となっております。

県民生活や産業活動のみならず観光立県としての自動車交通を支え、中北部地区から那覇空港への交通事情の緩和のため、那覇空港自動車道全線の供用を早期に実現していただきたい。

一、国道58号北谷拡幅の整備推進について

国道58号の北谷区間は、沖縄本島のハシゴ道路計画において、沖縄自動車道、国道329号とともに南北を走る強固な3本柱として位置付けられており、重要物流道路にも指定されております。

現在、同区間には多くの観光・商業施設が立地し、米軍基地跡地開発等の地域開発プロジェクトも今後予定されておりますが、慢性的に渋滞（特に休日の渋滞が著しい。）が発生していることから、交通容量の拡大並びに沿道環境の改善が必要です。国道58号北谷拡幅がなされることで、沖縄本島中南部西海岸地域における交通渋滞の緩和が図られるとともに、那覇空港・那覇港と中部地域・北部地域へのアクセス性が強化され、沖縄県全体の活性化に寄与すると考えております。

つきましては、沖縄本島中南部西海岸地域の渋滞緩和及び活性化に寄与する国道58号北谷拡幅の整備を推進していただきたい。

一、国道58号の浦添拡幅の早期整備について

牧港補給地区に隣接する国道58号の区間では慢性的に渋滞が発生しており、平成29年度に開通した臨港道路浦添線、沖縄西海岸道路浦添北道路、県道浦添西原線港川道路と連携し、国道58号浦添拡幅整備がなされることで、抜本的な渋滞解消が図られると考えております。

つきましては、沖縄県全体の経済発展に大きく寄与するため、国道58号浦添拡幅の早期整備（完成形）を推進していただきたい。

一、国道329号西原バイパスの早期整備について

南風原バイパス、与那原バイパスの暫定供用が開始され、道路網の構築によって本島東西間の交通の利便性が向上しております。しかし、与那原（北）交差点での交通混雑が新たに発生し、周辺地域の町道の朝・夕の交通渋滞が頻発するようになっております。そこで、与那原バイパス整備と国道

329号の立体道路の整備も併せて進めていく必要性があります。西原バイパス整備と立体道路整備をすることで、現在、抱えている国道329号の交通混雑の緩和に繋がり、それに伴って物流基盤の強化、産業振興、さらには、災害に強い交通ネットワークの形成など、地域経済の振興および防災機能の強靭化が図れることから、西原バイパスの早期整備（併せて立体道路）を推進していただきたい。

一、国道329号（仮）中城バイパスの整備について

国道329号は、沖縄本島東海岸を縦貫する唯一の主要幹線道路であり、その沿線周辺には、国際物流拠点として中城湾港新港地区が整備され、情報通信やものづくり分野などの主要産業の集積及び国際貨物等への物流・加工機能の付加価値を高める取組が推進されるなど、多角的な産業振興策が展開されております。

さらに、同湾港においては、県内の旺盛な観光需要による大型クルーズ船寄港回数の増加や近接市町村の海浜計画及び産業開発等に關係自治体や地域住民から強い期待が寄せられております。

つきましては、今後も沖縄本島東海岸地域の発展のため、国道329号（仮）中城バイパス（中城村・北中城村）の実現など国道329号の機能強化に向けた調査・検討作業を推進していただきたい。

一、国道329号沖縄バイパスの整備について

国道329号は、沖縄本島東海岸を縦貫する唯一の主要幹線道路で、県民に広く利用されているところですが、依然として、主要交差点で慢性的な渋滞が発生しており、渋滞回避の車両が生活道路を通り抜けるなど、安全・安心な住環境に影響を生じさせている状況にあります。

沖縄バイパス（沖縄市・うるま市）の整備は、国道329号の慢性的な交通渋滞の緩和や、物流の効率化、沖縄市北部地域の振興、安心・安全な住環境の実現にも寄与するものと期待しております。

つきましては、沖縄本島中部圏域の発展のため、沖縄ブロック新広域道路交通計画にて構想路線と位置付けられている沖縄バイパスの早期実現に向けて、着実に検討を進めていただきたい。

一、ハシゴ道路ネットワークにおける東西連結道路の充実について

((仮称)沖縄読谷線の構想化、中部縦貫道路及び宜野湾横断

道路の早期実現)

国道58号、県道浦添西原線、県道宜野湾北中城線や幸地インターチェンジの整備など、ハシゴ道路ネットワークの整備を促進するとともに、南北地域間・東西地域間の道路と一体となって機能する関連道路や沖縄自動車道への交通転換により国道329号、国道330号及び沖縄環状線の一部での混雑緩和が期待される池武当インターチェンジ(仮称)等の早期整備を図っていただきたい。

また、県道24号線バイパスは、北谷町－沖縄市間の市街地を連結する重要な路線であり、渋滞解消・防災・地域活性化の面からも早期整備が必要です。

更に、沖縄中部地域においては、中央に広大な米軍基地が位置していることから、東西連結のハシゴとなる道路が十分とはいえない状況にあります。

特に、読谷村－沖縄市間については、米軍嘉手納弾薬庫地区により、沖縄自動車道とのアクセスや、沖縄市北部地域、うるま市中城湾地域とのアクセスなども迂回を余儀なくされており、観光・産業の他、急性期病院への救急搬送の面からも道路網が必要です。

また、中城村においては、中頭東部地区における地すべりの危険性が高い地域とされており、地すべりが起きた場合に宜野湾市と中城村を結ぶ県道や村道が寸断され、移動に多大な支障が生じていたことから、新たな道路整備が求められている。

つきましては、国道58号と沖縄自動車道などの柱となる道路を支える東西連絡道路の一つとして、県外の共同使用等による事例も参考にしながら、沖縄自動車道沖縄北インターチェンジや国道329号から読谷村を結ぶ路線の「沖縄読谷線」を構想へと位置づけていただきたい。

沖縄県と関係市町村が策定した「中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想」において、広域的な幹線道路に位置付けられている中部縦貫道路及び宜野湾横断道路は、沖縄の新たな振興拠点として位置づけられている普天間飛行場跡地を通過し、中南部都市圏の骨格を形成するものである。普天間飛行場返還後の円滑な跡地利用の推進、ハシゴ道路ネットワークの構築を図るためにも、返還前の早い段階から中部縦貫道路及び宜野湾横断道路に関する検討を国、沖縄県及び市町村で行い、事業化に向けて取り組んでいただきたい。

また、(仮称)宜野湾横断道路は、国道329号西原バイパス整備及び大型MICE施設誘致と相まって、東海岸と中北部の西海岸を繋ぐ重要な道路となり、物流、観光、地域振興、防災など多岐にわたって沖縄振興に寄与するものとなるため、普天間飛行場の返還を待つのではなく、沖縄自動車道から県道29号線を経て国道329号に至る区間だけでも前倒しで早急に事業化していただきたい。

一、沖縄自動車道におけるインターチェンジの整備について

沖縄自動車道は、県民の日常生活や産業経済活動を支援し、地域の振興発展と活性化を促進する上で、欠くことのできない社会基盤であります。

しかしながら、沖縄における基幹軸としての沖縄自動車道は、インターチェンジ付近で渋滞が発生している状況になっております。

つきましては、中部地域の交通渋滞を緩和し地域の振興発展と活性化を図るため、新規事業化された池武当インターチェンジ(仮称)の早期完成に向けて、事業を推進していただきたい。

また、うるま市栄野比及び、既存の北中城村喜舎場スマートインターチェンジの機能拡充についても、早期の整備を推進していただきたい。

更に、宜野湾横断道路の整備と並行して(仮称)中城 IC の整備を推進していただきたい。

一、中部東道路の早期整備について

沖縄本島中部東海岸地域は、産業集積地である中城湾港新港地区や世界遺産勝連城跡をはじめとする風光明媚な観光資源が点在しておりますが、ハシゴ道路ネットワークの空白地帯となっており、沖縄自動車道までの所要時間が長く、南部圏域や北部圏域との人流・物流円滑化の阻害要因となっております。

また、沖縄本島で消費される燃料油の約6割を供給する沖縄油槽所からの燃料輸送道路や中城湾港新港地区と那覇空港及び那覇港の重要港湾を結ぶ強固な物流道路の構築が喫緊の課題であります。

令和3年に策定された沖縄ブロック新広域道路交通計画で高規格道路としての役割が期待される構想路線に位置付けられた「中部東道路」の早期実現は、これらの課題を解決するばかりでなく、沖縄本島中部地域唯一の三次救急医療機関である県立中部病院への所要時間短縮を可能にすることや中部東海岸地域の渋滞解消に寄与するなど平常時・災害時を問わない道路として大変重要な道路になると認識しているところです。

つきましては、ハシゴ道路ネットワークに東西方向に連結する速達性の高く強靭な高規格道路が沖縄県の自立型経済の確立及び県民の生命財産を守る重要な道路として必要であることから、「中部東道路」の早期整備を推進していただきたい。

一、国道330号胡屋・中央地区交通結節点の早期整備について

国道330号は、沖縄市の中心市街地「胡屋・中央地区」と那覇市を結

ぶ、中南部圏域の要衝となる道路です。

現在、当該地区では、国や県と連携しながら「胡屋・中央地区「バスタッププロジェクト」が進められており、沖縄市では、中心市街地の活性化を目指す、交通拠点のまちづくりに鋭意取り組んでいるところです。

つきましては、交通拠点整備による都市間の交流機会の創出、地域活性化、防災機能の拡充を図り、沖縄本島中部圏域の発展に資する「胡屋・中央地区交通結節点」の早期整備を推進していただきたい。

一、国道330号普天間交差点周辺の渋滞・安全対策について

国道330号普天間交差点は、主要渋滞箇所に位置づけられており、国におかれましては渋滞対策に取り組んでいただいているものと認識しております。

一方、宜野湾市のキャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区において、令和7年1月に琉球大学病院が開院、また同年4月には琉球大学医学部が開学し、国道330号をはじめ周辺地域において、さらなる交通量の増加が予想されています。普天間交差点付近は商業施設、住宅地の集積した地域であり、さらには普天間高校及び小中学校等が隣接していることもあり、歩行者も多い状況にあります。

また、普天間交差点周辺において地域活性化等を目的に普天満宮・普天間山神宮寺の地域資源の活用や宜野湾並松の再現など普天間飛行場周辺まちづくり事業を実施しております。

当該交差点は交通の要衝であり、中部地域における交通の円滑化を図るためにも、当該交差点の抜本的な渋滞解消のための改良が必要であることから、本市と一丸となって検討に取り組んでいただきたい。併せて、国道330号普天間交差点周辺地域において、無電柱化を推進するとともに、横断歩道橋のバリアフリー化、歩行者の安全性確保を含め、引き続き渋滞・安全対策を強化・推進していただきたい。

一、防災・減災、国土強靭化について

防災・減災、国土強靭化実施中期計画について、資材費・労務単価上昇により、これまで想定していた以上の事業費確保が必要となっていることから、例年以上の規模で予算を確保し、計画的に事業を推進するとともに、能登半島地震のような地震災害や八潮市の事故等が日本全国どこでも起こりうる可能性があると認識し、その教訓を踏まえ、切れ目なく、継続的・安定的に国土強靭化の取り組みをすすめるため、これらの地震、事故等を踏まえた更なる対策の拡充や新たな施策の位置付け、資材費・労務単価などの高騰も踏まえ、現行の対策を大幅に上回る予算・財源を盛り込

んだ上で国土強靭化実施中期計画を早期に策定し、計画を着実に進めるために必要な予算・財源を通常道路予算に加え別枠で確保していただきたい。

また、沖縄経済を支えるため、成長力及び国際競争力の強化、更には生産性向上の観点から、公共事業に関する予算について例年以上の規模で確保していただきたい。

一、無電柱化・道路緑化の推進について

一昨年の台風6号により、長時間にわたる停電被害が発生したことを踏まえ、台風の被災頻度が高く、他地域からの支援を受けることが困難な離島地域をはじめ県内全域における安定的な電力供給網等の確保、災害時の緊急輸送道路等の安全性の確保及びリゾート地に相応しい良好な景観形成等を図るため、占用制限も含めた無電柱化の推進及び観光振興を目的に道路緑化等を推進いただきたい。

一、沖縄総合事務局の体制強化について

激甚化・頻発化する大規模自然災害の脅威・危険に即応するため、並びに中部地域の課題解決に資する本要望に記載する各事業の迅速な対応・推進のために、離島県である沖縄県では自治体間の連携は限界があることから、沖縄総合事務局開発建設部における災害対応体制の充実・強化、災害対応に必要となる資機材の更なる確保をしていただきたい。